

小池一之・田村俊和・鎮西清高・宮城豊彦編「日本の地形3 東北」

吉田 武義*

Book Review: Regional Geomorphology of the Japanese Islands vol. 3 Geomorphology of Tohoku Region, Edited by Kazuyuki Koike, Toshikazu Tamura, Kiyotaka Chinzei and Toyohiko Miyagi

Takeyoshi YOSHIDA*

東北地方は、太平洋プレートの沈み込みに伴って発達する、典型的な島弧-海溝系の地質構造と地形を持ち、そこには多数の火山が分布する。本書は、東北地方の地形の特徴について詳細に記述し、その発達史を論じた地形誌であるが、十和田、八甲田、八幡平、岩手、秋田駒ヶ岳、栗駒、鬼首、鳴子、船形、蔵王、吾妻、安達太良、磐梯、岩木、鳥海、月山他の多数の火山について最新の研究成果がまとめられているので、ここに紹介する。本書は、日本で初めて全国を網羅した地形誌と銘打たれ、東京大学出版会の創立50周年を記念して出版されている日本の地形(全7巻)の第3巻にあたる。執筆者は37名にのぼり、総頁数は355頁におよぶ大著である。

東北地方は、東から西へ、日本海溝、北上・阿武隈山地、河谷低地帯、奥羽脊梁山脈、山間盆地群、出羽・飯豊山地、日本海側沈降帯、日本海東縁変動帯に大きく区分される。本書では、第1章の総説で、東北地方の島弧としての特徴、大地形と地形区分、気候の特徴、地形・地質編年、そして研究史が詳しく述べられた後に、これらの地形区を、東側から西側へと詳しく記載している

第2章「北上山地と阿武隈山地」では、北上山地の地質と地形発達、三陸のリアス式海岸、阿武隈山地の地質と地形、浜通りや常磐海岸の段丘地形、そして北上・阿武隈沖の海底地形について、最新の成果がまとめられている。第3章「下北半島・北上低地帯・阿武隈低地帯」では、北から下北半島、上北平野、そして北上山地西縁部の丘陵地、北上低地帯の扇状地面群が詳しく記述された後、

仙台平野や阿武隈低地帯の地形発達と、第四紀の火山活動や活断層と地形との関係が詳しく論じられている。第4章「奥羽脊梁山脈と火山群」では、火山の大局的分布と地形との関係が述べられた後に、十和田カルデラ・八甲田カルデラ、仙岩地域の火山群、鬼首カルデラと周辺の火山群、船形・蔵王火山群、そして、吾妻・安達太良・磐梯火山について詳述されたのち、火山群の土台をなす奥羽山脈の地形的特徴が述べられている。第5章「南北に連なる盆地群と日本海に注ぐ河川群」では、津軽平野、米代川流域、雄物川流域、最上川流域、そして阿賀野川流域の地形的特徴が、最新の成果をもとに詳しく論じられている。第6章「出羽・飯豊山地と日本海沿岸の地形」では、出羽山地の概要とその発達史が述べられた後、北から津軽半島、男鹿半島〜秋田平野、日本海側の火山群、庄内平野、飯豊・朝日山地、海成段丘について、それらの地形学的特徴が記述され、最後に日本海沿岸域の海底地形について、詳しい記述がなされている。

そして、最後の第7章では「東北日本の地形発達」がまとめられ、山地と盆地の分化が論じられ、第四紀後半の環境変遷と地形発達史が明解に示されている。そして最後に東北地方の自然災害の節では、火山災害、津波災害を含む地震災害、海岸侵食、大雨による斜面災害と氾濫、地すべり災害が、コンパクトにまとめられている。

本書では、そのいたるところに、発達史的観点からの、これまでの研究のまとめがされており、読者は、本書を手にするにより、東北地方における火山を含む地形・地質の発達過程を目のあたりにすることができる。また、火山の分布と地形との関係は、古くてまた新しい課題でもあるが、島弧火山を抱く東北地方の地形、地質の特徴と、そこに発達する火山の諸相を総合的に理解する上で、本書は必須の一冊であろう。

(2005年2月21日発行、355頁、本体価格6800円+税、ISBN4-13-064713-X; 東京大学出版会)

* 〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻青葉 6-3

東北大学大学院理学研究科地球物質科学科島弧マグマ学研究室

Research Laboratory of Arc Magmatism, Institute of Mineralogy, Petrology and Economic Geology, Graduate School of Science, Tohoku University, Aoba, Sendai 980-8578, Japan.

e-mail: tyoshida@mail.tains.tohoku.ac.jp